

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 ( 月 日実施)	総合評価（ 月 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○個々が主体的に学ぶ意欲を高め、希望する進路選択に適う単位制総合学科の趣旨を生かしたカリキュラムを編成する。 ○確かな学力向上に向けて、生徒の学習意欲を高めるために、組織的な授業改善に取り組む。	①生徒のニーズに応じた科目選択や効果的な履修指導を実施し、総合学科の趣旨を生かした主体的な学習につながる教育課程のあり方を検討する。 ②ICT 機器を効果的に活用した授業改善を行い、機器に頼ることなく、他者との協働を通じて主体的に学ぶ姿勢を培い、機器を有効に活用する能力を養う。	①生徒の進路実現に向け、個々のニーズに合った科目選択ができるような時間割編成を行い、適切な履修指導を進め、総合学科の趣旨を生かした、教育課程の編成を検討する。 ②ICT 機器を効果的に活用した授業改善を行い、生徒が主体的に他者と協働し機器を活用しながら学習する能力を養う。	①生徒の希望を適切に受け入れられるような時間割編成につとめ、関係部署と連携して丁寧な履修指導を行ったか。また、生徒の主体的な学習につながる、総合学科の趣旨を生かした教育課程のあり方を検討できたか。 ②ICT 機器を効果的に活用した授業改善を行い、他者との協働を通じて機器を有効に活用する能力を培い学習することができたか。					
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	○日常的な生徒指導を組織的に行い、規範意識の醸成及び、個に応じた相談・支援体制のさらなる充実を図る。 ○生徒主体の学校行事や部活動を推進し、リーダーシップを育成する支援を継続的に行っていく。	①職員間で相談・支援体制を共有し、迅速にかつ生徒に寄り添った生徒指導を心がける。 ②学校行事や生徒会活動、部活動において、生徒が主体的に動ける力を育み、日常生活ではHR活動で生徒の規範意識の向上を図る。 ③多様な生徒の状況を踏まえた教育相談体制を構築し、支援の必要な生徒に寄り添った対応を充実させる。	①指導の目的を明確化し、職員全体で生徒指導に当たられるような工夫をしながら実施する。 ②学校行事や委員会活動、部活動において、生徒一人ひとりが自らの役割を考え、動ける力を育むよう工夫する。 ③「かながわ子どもサポートドック」の実施時期、方法等を検討し、適切に支援ができるように組織的に対応していく。	①あいさつ運動、定期的な身だしなみの指導、再登校指導などに職員全体で、意義や目的を共有しながら、取り組むことができたか。また、職員全体で指導体制が共有できたか。 ②生徒がそれぞれの場面で、自ら動くべき時がわかっていたか。生徒の意見は正しく反映されたか。部活動の加入率は上がったか。 ③「かながわ子どもサポートドック」を有効に活用し、面談等の適切な支援ができたか。					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 ( 月 日実施)	総合評価 ( 月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	○ガイダンスの授業を軸としたキャリア教育のさらなる充実を図り、主体的な進路選択の支援を実現する。 ○学校外の教育力を活用して「課題解決能力」や「コミュニケーション能力」を育み、キャリア発達を促す。	①ガイダンスの授業を通して職業観を養い、キャリア教育を推進する。また、外部機関の力を借り、自ら学ぶ姿勢を養い課題解決能力を身に付ける。 ②生徒一人一人の個性を活かした進路実現の支援を行うため、外部教材を用いて基礎学力を身に付け、進路選択の幅を広げる。	①ガイダンスの授業において、自己実現や課題研究の充実を図るために生徒の興味・関心を引き出す魅力ある授業を提供する。 ②生徒の探究心の向上を目指すため、外部機関で体験やインタビューを行う。また、外部教材のスタディサポート等を活用し、生徒の学習習慣を確立させる。	①生徒が興味・関心を持つ内容であったか。それにより、生徒の職業観の形成に効果があり、生徒の進路未決定者数を減ったか。 ② 外部機関との連携先への体験人数を増加し、主体的に学ぶ生徒が増えたか。また、進路に関する生徒の相談やスタディサポートを有効に活用できたか。					
4	地域等との協働	○学校運営協議会を通して、地域と連携・協働して教育活動の充実を図る。 ○積極的に本校の教育活動を発信し、社会に開かれた学校づくりに引き続き取り組む。 ○防災意識を高め、本校のSDGS(防災)の体制づくりに取り組む。	①学校運営協議会の評価をもとに課題や改善方策を模索するなど外部との協働による教育活動の充実を図る。 ②本校の教育活動をホームページ等でリアルタイムに更新し情報発信することで開かれた学校づくりを推進する。 ③本校の防災体制を再考するとともに地域との連携を加えた防災訓練等を通じて防災への意識を高める。	①学校運営協議会で確認された成果を今後も継承し課題の整理と課題解決を図る。 ②学校説明会や中学校訪問文化祭やオープンスクール等を通じて学校の魅力を中学生や地域の方々へ発信する。 ③本校および地域との連携を加えた防災訓練を実施する。	①教育活動の成果を確認し継続出来ているか。また課題の整理と解決が図られているか。 ②開かれた学校行事での来校数は増加しているか。また来校時のアンケート結果の集約し今後に活かされているか。ホームページの更新と更新回数の状況確認。 ③ 防災訓練を通じて、生徒に防災への意識を高めることができたかどうか。					
5	学校管理 学校運営	○安全、安心な校内環境を維持し事故防止に努めて、信頼される学校づくりを進める。 ○ワークライフバランスを念頭に置き、校務の効率化を図ると共に生徒と向き合う時間を確保する。	①計画的に校内研修を実施し、法令遵守の意識を高め、事故および不祥事のない校内環境を整える。 ②グループ改編のもと、校務の見直しや検証を行い、業務内容を精選して業務の効率化を図る。	①本校独自の不祥事ゼロプログラムを定め、定期的に研修会を実施し、全職員の事故防止に対する啓発活動を行う。 ②業務内容の漏れ等をお互いにチェックして、業務の精選と効率化を図り、会議等の回数や時間短縮に努める。	①事故・不祥事を防ぐために定期的に研修会を実施し、全職員の事故防止の意識を向上させることができたか。 ②勤務時間内に会議を終了し、生徒との時間が増えたか。また、Teams等の活用し打合せ時間を短縮できたか。					